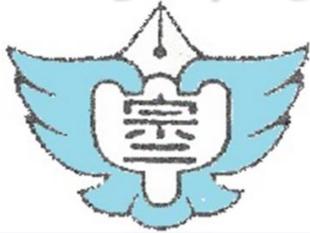


宗岡二中だより 12月号



令和7年12月1日

自ら学び考える生徒
学校教育目標：心豊かな優しい生徒
明るく元気な生徒

数学のもとになるのは頭ではない。情緒だ。

校長 伊藤大輔

秋が深まり、冬に移ろいゆく季節。我が家には、真っ赤なリンゴが届きます。妻の両親の故郷・長野県飯綱町の逸品です。家じゅうが、甘い香りで満たされます。飯綱町は志木市とも縁(ゆかり)があるので、給食でも地元特産のリンゴが提供されます。

皆さんは「リンゴ」という言葉を目にしたたり、耳にしたたりすると何を思い浮かべますか。以下に、ある答え(の一部)を示します。

「リンゴ」とは、バラ科リンゴ属の果物で、世界中で広く食べられている代表的なフルーツです。一般的な特徴は次のとおりです：

- ・シャキッとした食感とほどよい甘み・酸味
- ・赤・緑・黄色など多様な品種(例:ふじ、紅玉、グラニー・スミスなど)

いずれもリンゴの特徴をよく捉えています。これはAIが導き出した答えです。ウェブの世界が抱える膨大な情報の中からリンゴに当てはまるものを集め、組み合わせ、出力した答えです。問題は、AIがこの内容を考え出してはいないということです。情報を集めて加工して出力しただけなのです。言葉や記号が、実世界と結びついてはいないのです。

私たちは体に根差した体験に基づいて対象を理解します。「リンゴ」を見聞きすると、我々は頭の中に色、形、甘酸っぱい香り、味、シャリッとした食感などを思い浮かべます。つまり身体感覚や経験とつなげて、言葉を理解するので、記号(言葉)が現実 접촉した状態。これを記号接地(きごうせっち)と言います。

例えば「リンゴを6等分する。」 0.5 、 0.8 、 0.1 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{9}{10}$ 、 $\frac{2}{5}$ を小さい順に並べる。」

「醤油10mlと砂糖10gをあわせる。」といった課題に取り組むときも、あなたが生きる現実と接地しているかどうかを確かめることが肝心なものです。記号に意味を見出すのです。そして、たとえ答えが間違っていたとしても、自分の力で考えて、修正していく過程そのものが記号接地でもあるのです。

さて、標題は世界的な業績を残した日本人数学者、岡潔(おかきよし)の言葉です。この偉人が放った言葉が「情緒」です。情緒とは感情の模様を大切に楽しむ心です。意味を感じ取る心です。思いやる心です。人の中心です。

ここまで皆さんは目標をもって学習に取り組んできました。志望校合格、目標点クリア、苦手分野の克服……。具体的な目標は学びの質を高めます。しかし、目標達成は学びの終着点ではありません。学びは一生続きます。そして学びの土台は皆さん自らが、自らを育てながら形作るものです。その源泉は岡潔が言う「情緒」にあり、健全な心の働きにあるのかもしれないと私は思います。

師走に入りました。間もなく二学期が終わります。そして一年が終わります。節目の今こそ、地に足が付く学びが実現できているかを確かめましょう。自分の軸を育てましょう。